

- 1935 10月：小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月：光学ガラス熔解開始
- 1944 2月：株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月：白金坩堝熔解開始
- 1958 4月：ランタンガラス生産開始
- 1961 1月：連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月：足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月：オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月：低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月：Ohara Optical Glass Inc. (米国) (現・Ohara Corporation) 設立
- 1982 3月：オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月：ステッパー用ハイホモガラス( $\Delta n \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$ )量産開始
- 1984 3月：高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月：株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月：台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月：紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
- 5月：有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月：結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月：OHARA GmbH (独逸) 設立
- 1991 9月：環境対策光学ガラス生産開始
- 11月：OHARA OPTICAL (M) SDN.BHD. (マレーシア) 設立
- 1993 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月：ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月：光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月：ISO9001認証取得
- 1999 1月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月：低光弾性ガラス生産開始
- 4月：ISO14001認証取得
- 10月：真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月：小原光学(香港)有限公司設立
- 6月：大規模連続熔解開始
- 12月：小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月：東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月：ファイバー用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月：低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
- 9月：オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月：株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
- 2011 3月：華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月：台湾小原光学材料股份有限公司設立
- 8月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月：ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
- 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月：非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
- 10月：創立80周年
- 12月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 1月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)、交換レンズ用高級フィルター「IWR CERAMIC PROTECTOR」に採用
- 8月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月：世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
- 12月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月：NEDOプロジェクト先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加
- 9月：非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始



提供:国立天文台  
協力:三菱電機株式会社



提供:株式会社シグマ



JAXA

編集方針

オハラレポートは、事業活動とCSR活動に関する取り組みをステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えし、ご理解いただくことを目的としています。  
事業活動では担当者の声とともに、トピックスなどを交えてお伝えします。また特集では中期経営計画と、MMB推進プロジェクトの進捗についてご紹介し、オハラの継続的な取り組みについては「企業倫理の基本理念」に沿った構成でご報告します。  
本レポートを通じて、オハラをより身近に感じていただければ幸いです。

報告対象範囲

株式会社オハラ単体の活動を中心に掲載しています。  
\*ただし、決算数値についてはグループ会社を含みます。

報告対象期間

2018年度(2017年11月1日~2018年10月31日)  
\*ただし、一部については2019年度の内容を含みます。

発行時期

2019年1月  
前回:2018年1月  
次回:2020年1月予定

参照ガイドライン

GRI「GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン」  
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」



お問い合わせ先

〒252-5286 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30  
総務人事センター 総務部  
TEL:042-772-2101(代) FAX:042-774-1071  
ウェブサイト: http://www.ohara-inc.co.jp/  
E-mail: info@ohara-inc.co.jp



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。



オハラレポート  
2019

CONTENTS	
経営理念/ビジョンステートメント	1
オハラの考えるCSR	2
オハラグループについて	3
オハラスピリッツ	5
事業紹介(光事業)	7
トピックス1/光学ガラスの可能性を上げ 価値づくりで未来を拓く	8
事業紹介(エレクトロニクス事業)	9
トピックス2/世の中の期待に応える マテリアル+ソリューションを開発	10
トップメッセージ	11
特集1/中期経営計画の進捗について	13
特集2/MMB推進プロジェクト ~新市場開拓へ向けての組織横断での取り組み~	15
誠実な活動	17
社会との調和	19
情報の公開	20
環境の保全	21
社員の尊重	23
連結決算ハイライト	25
会社概要	26



## 経営理念

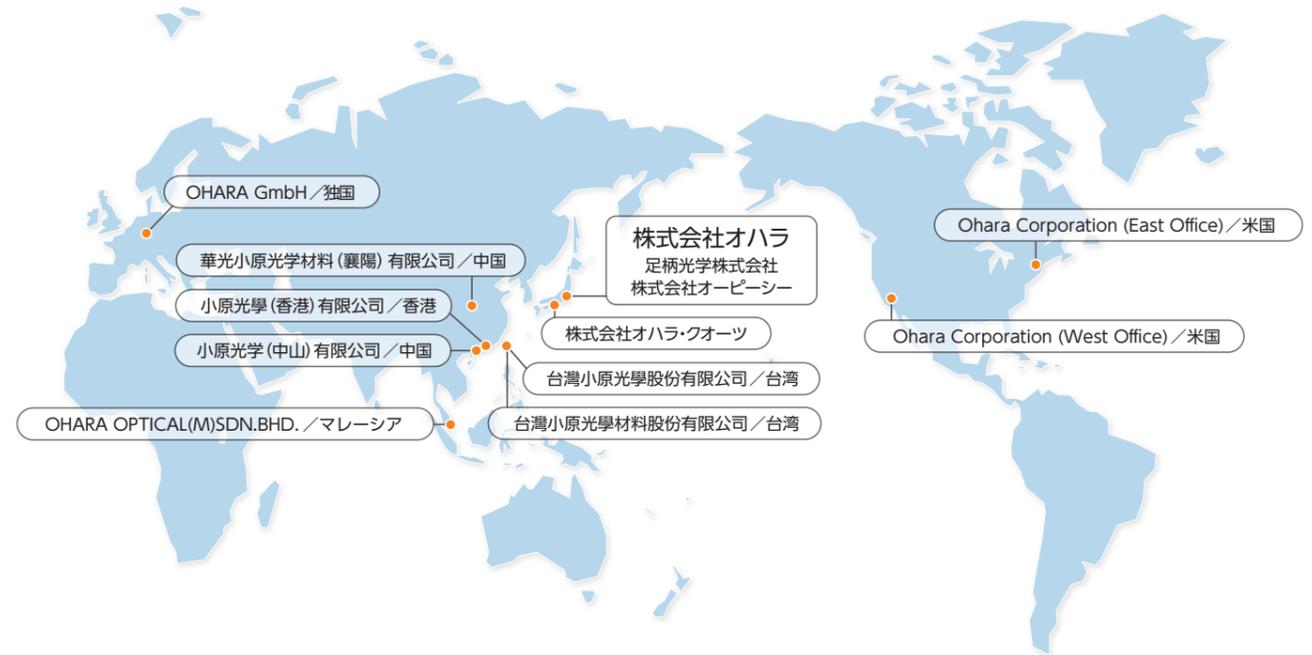
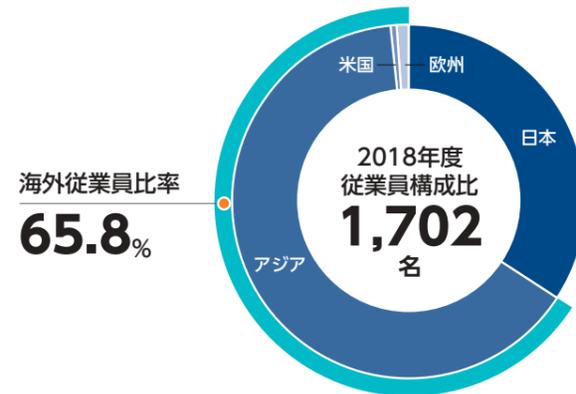
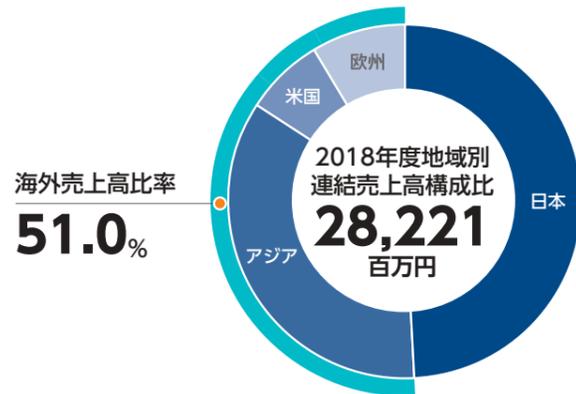
オハラグループは、  
常に個性的な新しい価値を創造して、  
強い企業を構築し、  
オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

## ビジョンステートメント

われわれは、人と社会の未来創造へ貢献する高い志と変革への実行力を持ち、  
光とエレクトロニクス、環境・エネルギーの分野において、  
最高品質の先進素材を世界中に提供することで、  
お客様とともに技術を革新する「夢実現企業」となる。

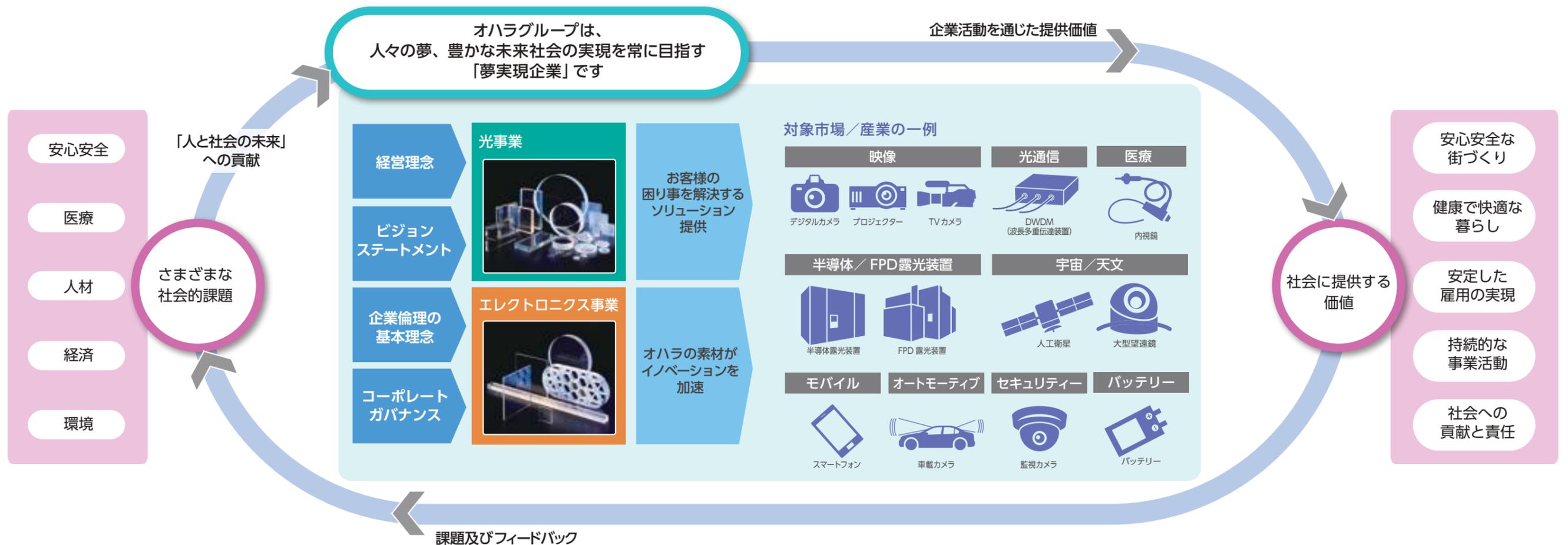


オハラグループは、光製品やエレクトロニクス製品分野において、グローバルな事業展開をしています。



オハラグループの価値創造プロセス

オハラグループはこれらの事業活動及び製品を通じて、あらゆるステークホルダーに対して企業価値の提供を行っています。また、新たな社会的課題の解決に向けて効率的に投資を行い、次なる価値の提供につなげていきます。



オハラグループの事業活動を支える「研究開発」「品質保証」「生産工程」についてご紹介します。

## 研究開発

オハラは光、電子(エレクトロニクス)などの物性を自由にコントロールできる先進素材の提供に向け、あらゆる可能性を追求しています。

オハラは1935年の創業以来、光学ガラス専門メーカーとして、日本の光学産業界の発展に寄与してきました。

そして1985年、創立50周年を機に、高度情報化社会の多様化に対応した提案型素材メーカーへと脱皮してきました。

新たに「モバイル・モビリティ市場」を重点対象と位置付け、単なる先進素材の開発だけではなく、テクニカルデータなどのソリューション提供やサプライチェーンの構築などを通じて、お客様と対話しながら研究開発活動を続けてきました。車載カメラ用のレンズ素材など、徐々に成果も出始めており、今後も顧客密着型の開発活動を継続し、新たな価値を提案していきます。



X線回折装置



成膜金型

### Staff's Voice

車載カメラ用やプロジェクター用などのレンズには、従来のカメラ用途などとは異なる特性が求められます。これらの特性はカタログに掲載しているデータから判断することが難しく、お客様がガラス材料を選択する上で悩みの種となっていました。この悩みを解決するために評価方法を考えてデータを取得し、お客様に提供して、喜んで頂いた時にはとてもやりがいを感じました。今後も継続していきたいと考えています。

光製品事業部 光製品開発部  
二野宮 晟大

## 品質保証

オハラは「最高品質へのこだわり」という遺伝子を持ち続け、お客様に満足していただける製品・サービスを提供し、世界に誇る新たな材料を開発、製造する技術につなげています。

オハラ品質方針では、お客様からの一層の信頼と満足の向上を常に心掛け、まず第一にお客様からの要求を十分に理解することを明言しています。お客様によって品質が定められる「お客様第一の考え」をオハラ品質保証の根源としています。

また、2017年10月にISO9001:2015年度版国際規格の認証を第三者認証機関の審査により更新しています。オハラは品質マネジメントシステムを企業戦略の方向性に合致させ、品質に及ぼすリスク・課題を明確にし、お客様に信頼される製品・サービスを供給しています。また、オハラでは高精度測定技術による分析・評価により品質を保証しています。自信を持って最高品質をお客様の元へ提供しています。

### 品質目標

- 「[マテリアル] + [ソリューション]」の提供による戦略目標の達成
- ブランディングの強化
- 顧客満足度の向上
- コスト削減目標の達成
- 利害関係者からのクレーム削減
- 業務品質の向上



ISO9001審査

### Staff's Voice

私達測定評価部門は「評価項目に対して迅速に精度の高い評価結果を提供する」の考えに基づき、お客様の求める高品質の製品を安定して市場に提供するための一翼を担うことを至上任務としています。そのために蓄積した技術の継続・人材育成はもとより、市場の高度な技術変化に対応すべく、一歩先を行く技術の確立にも挑戦を続けています。

事業支援センター 品質保証部  
新津 靖彦

## 生産工程

オハラは、現在のみならず将来のお客様のニーズに応えるべく、原料設計、特性設計から熔解、加工、出荷までの一貫した技術力と信頼のある製品を世界へ送り出しています。

オハラは、光学ガラス生産において、従来の手法に囚われない生産技術開発を進め、品質向上・原価低減に日々取り組んでいます。また、光学ガラスで培った技術を基に、特殊用途に使用されるガラスの開発・生産にも積極的に取り組んでいます。

突出した特性を持ったガラスセラミックスであるナノセラム™は、2018年度から本格的に量産を開始し、お客様が求める品質を実現する生産体制を構築しています。

このようにオハラはQCDE(品質・コスト・納期・環境)すべてにおいてお客様のニーズに応えるべく、今後も独自の技術革新ならびに効率化活動に取り組んでいきます。

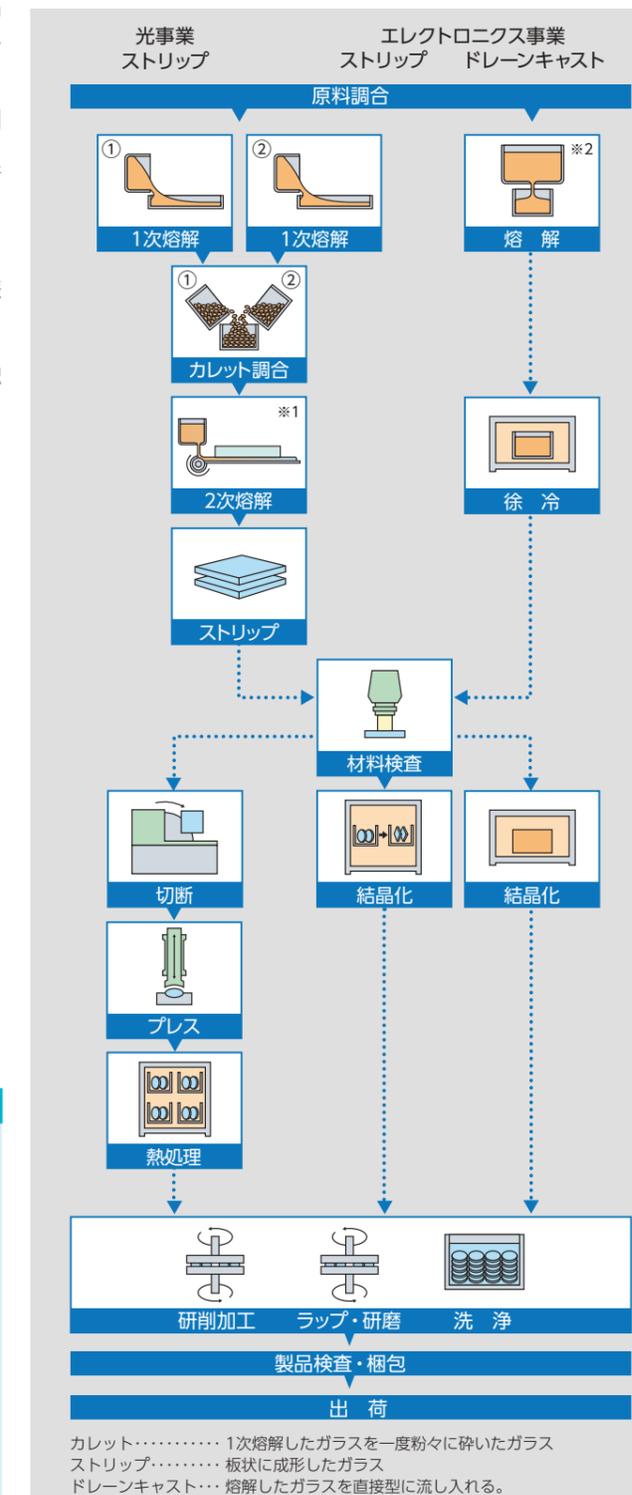
自動切断直後の硝子  
(右図 ※1)成形  
(右図 ※2)

### Staff's Voice

私達製造部門は日々、品質・生産の状態の確認及び生産状況のデータを蓄積することで、問題解決・歩留向上に取り組んでいます。既成概念にとらわれず、技術革新につながる結果あるいは現象を見逃すことのないようにしています。また、生産管理や前工程などを担う部署との連携を強化し、生産性向上を目指していきます。

材料生産センター 製造部  
坂井 亮介

### 製造方式・工程



オハラグループの光事業をご紹介します。

## 光事業

### 営業品目

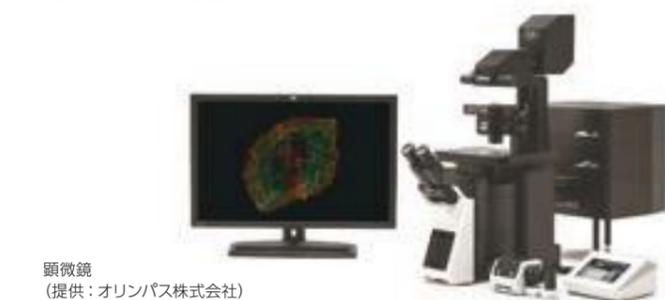
- 研磨レンズ用光学ガラス
- 非球面ガラスモールド用光学ガラス (低Tg光学ガラス)

光学ガラスは、デジタル一眼レフカメラ・プロジェクター・TVカメラ・車載カメラ・監視カメラ・医療機器など様々な光学機器に使用されています。オハラでは光学機器の高性能化、小型化、低コスト化を実現する特徴ある光学ガラスを150種類以上ラインナップし、あらゆる光学設計のニーズに対応しています。

オハラが提供する最高品質の先進ガラス素材は、世界中の人々の笑顔や感動をサポートしています。



ミラーレスカメラ EOS Rシステム  
(提供: キヤノン株式会社)



顕微鏡  
(提供: オリンパス株式会社)

### 光学ガラス製品

光学機器の光学系は、光の屈折率や透過率に特徴を有した複数種類の光学ガラスを用いて、球面レンズ・非球面レンズ・プリズム・フィルターなどの光学部品を組み合わせ構成されています。

オハラは様々な光学機器の光学設計に対応するため、150種類以上の光学ガラスを取り揃えており、光学機器の高性能化、小型化、軽量化、低コスト化などの多種多様な光学設計のニーズにお応えしています。また、お客様のご要望に沿って、レンズ加工に適した形状の光学ガラス、レンズ加工を施した製品など、ガラス素材から光学部品まで、様々な製品形態でお客様に光学ガラス製品を提供しています。

### 製品供給形態

#### リヒートプレス品

球面研磨レンズやプリズム加工に適した形状に熱間プレス成形された製品

#### 研磨プリフォーム

非球面ガラスモールドレンズ加工に適した形状に球面研磨された製品

#### 球面レンズ

両面球面研磨加工・芯取加工・コート加工を施したレンズ

#### 非球面ガラスモールドレンズ

研磨プリフォームを高温に加熱・軟化させ、超高精度非球面金型で形状を転写させ、芯取加工・コート加工を施したレンズ

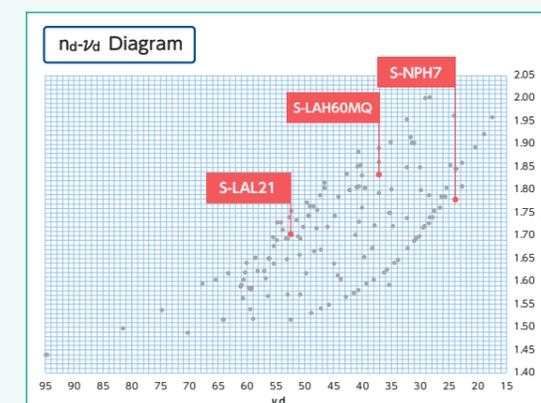
### トピックス

1

## 光学ガラスの可能性を拡張 価値づくりで未来を拓く

### 車載カメラレンズ用光学ガラスを拡充

オハラ独自の技術力を車載カメラ用レンズでの使用を前提とした光学ガラスの開発に活かし、化学的耐久性と機械的特性を向上させ、また温度変化による屈折率変動(温度ドリフト)を考慮したレンズ材料を、2018年度も3製品開発して製品リリースしました。これらのレンズ材料は車載カメラ用に専用設計したのですが、プロジェクター製品をはじめ、デジタルカメラなどあらゆる光学製品にもご利用いただけます。



光学ガラス製品の屈折率(nd-vd)図

### 非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始

2014年度に、製造が極めて難しいとされている低屈折低分散ガラスを用いた非球面ガラスモールドレンズの量産化に成功し、多くのお客様に提供しています。

この非球面ガラスモールドレンズについては、おかげさまでお客様から多くの引き合いを頂いたことから、本社工場敷地内に新工場を建設し、2018年10月より増産を開始しました。

新工場には最新式のクリーンシステムの他、オハラ独自の技術を活かした生産設備を備えています。

今後もお客様の幅広いニーズにお応えできるよう技術開発を推進し、非球面ガラスモールドレンズを通じて、お客様に新しい価値を提供し続けていきます。



新工場

### Staff's Voice

車載カメラは外部に取り付けられて使用することが多いため、大気中の砂埃や飛来物、雨水などにさらされた環境で使用されます。そのような状況下でも安心してご使用いただけるガラス素材を開発し、製品化しました。今回の製品開発で新たに得られた知見も多く、これらの技術を活かして次の新製品の開発を進め、世の中に貢献していきます。



材料生産センター 材料生産管理部  
野嶋 浩人

### Staff's Voice

新工場が本格的に稼働を開始し、クリーンな環境に毎日緊張感とやる気が湧いてきます。

より良い非球面ガラスモールドレンズをお客様に提供できるよう社内で協力し、スキルを磨き、経験を重ねながら業務遂行に努めていきます。



光製品事業部 光製品製造部  
河内 秋美

オハラグループのエレクトロニクス事業をご紹介します。

## エレクトロニクス事業

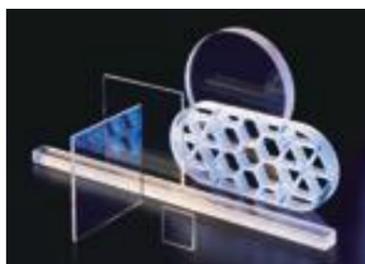
### 営業品目

- 極低膨張ガラスセラミックス (クリアセラム™-Z)
- 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス (ナノセラム™)
- DWDM誘電体多層膜 フィルター用ガラスセラミックス サブストレート (WMS™-15)
- リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス (LICGC™)
- 高透過率ファイバー用ガラス
- i 線用高均質性光学ガラス
- 合成石英ガラス (株式会社オハラ・クオーツ)
- 超精密平面研磨加工 (株式会社オーピーシー)
- 装飾用ガラス

光学ガラスで培った技術を基に開発された特殊ガラスは、宇宙、半導体/FPD露光装置、光通信、計測、環境・エネルギーなど様々な市場分野に応用展開しています。

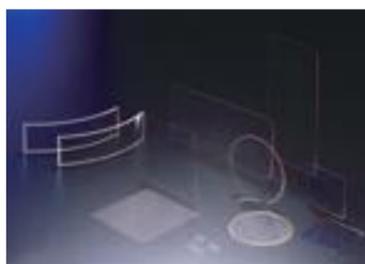
今後も最先端分野へ採用される新たな製品の開発、品質向上を目指していきます。

### 極低膨張ガラスセラミックス (クリアセラム™-Z)



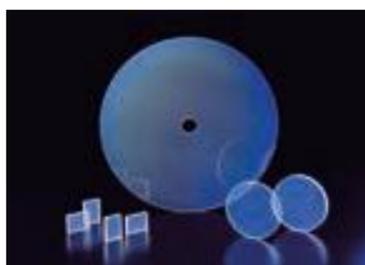
長年培った高均質熔解技術とナノ結晶化技術により生み出されたゼロ膨張のガラスセラミックス

### 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス (ナノセラム™)



オハラのナノ結晶化技術をさらに進化させ、優れた耐衝撃性と透過率をもち合わせたガラスセラミックス

### DWDM誘電体多層膜フィルター用ガラスセラミックスサブストレート (WMS™-15)



多層膜フィルター向けに最適な熱膨張係数と高ヤング率特性をもち合わせたガラスセラミックス

### リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス (LICGC™)



酸化物系固体電解質でトップクラスのイオン伝導性をもち、高い化学的安定性及び耐水性をもつガラスセラミックス

### i 線用高均質性光学ガラス



内部透過率及び光学的均質性が特に優れた光学ガラス

### 合成石英ガラス



光ファイバーの製造技術から生まれた、深紫外から遠赤外まで優れた特性を発揮する高純度・高品質な合成石英

トピックス  
2

## 世の中の期待に応える マテリアル+ソリューションを開発

### ガラスを超え「最強素材」の要望に応えるガラスセラミックス

耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)は、過去様々な分野で認められてきたオハラの結晶化ガラス技術をさらに進化させ、優れた機械的特性、高透過率を実現したガラスセラミックスです。

耐衝撃性が求められる光学機器やモバイル機器など様々な製品に、サファイアクリスタルガラスや化学強化ガラスでは実現できない新たな提案が可能です。

例えば、世界中のスマートフォンメーカーがカバーガラスの割れトラブルに悩んでいます。さらに今後、携帯電波が次世代(5G)になると、裏側のボディ(筐体)は従来の金属製では電波を反射することや樹脂では高級感(質感)が物足りなく、またガラスでは割れ、セラミックスは加工が難しいなどの問題があるため、これらをナノセラム™ですべて解決したいとの要望を世界中のメーカーから頂いています。これからは腕時計やスマートウォッチ、また電装化が進み高硬度・高強度ガラスが必要とされる自動車用途などの幅広い分野でもお客様の要望に応え、貢献していきます。

耐衝撃・高硬度  
クリアガラスセラミックス  
(ナノセラム™)



### リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス (LICGC™) の新用途「正極添加材」

LICGC™は高いイオン伝導性をもち、大気中及び水や有機溶剤に対して安定かつ不燃性の特徴をもつ優れた固体電解質材料です。次世代電池として期待される全固体電池や空気電池の固体電解質として、多くの企業や研究機関にてLICGC™を使用した研究開発が進められています。

オハラではこの材料の新たな価値として、粉末形態のLICGC™(LICGC™粉末材)を既存のリチウムイオン電池の正極に微量加えることによって、充電時間の短縮効果や寒冷地における電池容量低下に抑制効果をもつ正極添加材としての用途を見出しました。正極へのLICGC™粉末材の添加方法は一般的な正極製造工程に適合し、LICGC™粉末材を正極スラリーに添加して正極内部に分散分布させることによって効果が得られます。

スマートフォンやPCなどモバイル用リチウムイオン電池やHEV、PHEV、EV用の車載電池の性能改善にLICGC™粉末材の添加効果が期待され、各社で評価が進められています。

LICGC™粉末材



### Staff's Voice

過去、オハラのガラスは「業界では有名だが、消費者は知らない縁の下の力持ち」でした。しかしナノセラム™は極めて消費者に近く、例えば家電量販店では最終製品にナノセラム™の名前を見ることが出来ます。今後は高性能な素材という点のみならず、オハラの歴史と実績を世界中の人々に伝えるブランド素材へと成長させていきます。



特殊品事業部 特殊品BU  
千葉 圭

### Staff's Voice

LICGC™粉末材の材料開発とともに、応用開発にも力を入れて取り組んできました。今では、LICGC™の次世代電池用固体電解質としての用途だけでなく、正極添加材としての用途の認知も広まり、電池業界内でオハラの活動は非常に注目されています。今後もお客様の期待に応え、社会貢献できるよう努めていきます。



特殊品事業部 LB-BU  
佐藤 遼平

● 2018年度の取り組みと成果

光事業・エレクトロニクス事業ともに躍進し、大幅増益

オハラグループは、「マテリアル+ソリューションのオハラ」をキーコンセプトに掲げた3か年中期経営計画（2018年度～2020年度）を策定し、本計画を「長期ビジョン2020」の最終ステージとして、再成長軌道への回帰を目指す取り組みを開始しました。

計画初年度は、デジタルカメラ市場全体の縮小傾向の中、コンパクトタイプの低迷が続いたものの、レンズ交換タイプではミラーレス機の需要が伸び、またデジタルカメラ以外では、プロジェクター用や監視カメラ用、車載カメラ用の高品位製品の需要が増加したことから、光事業はこれらを取り込んだ業績拡大を果たしました。エレクトロニクス事業は、露光装置市場において半導体向けの需要が好調に推移したことに加え、耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「ナノセラム™」もスマートフォン関連製品への採用が進み、大きく成長しました。

増収を牽引した要素を挙げますと、光事業では近年、光学機器の性能向上に対応した新硝材の積極的な開発・投入を進めており、その採用拡大が市場成長を上回る伸びにつながっています。レンズの川下領域における販売も増加し、高付加価値化によって売上高を押し上げました。エレクトロニクス事業では、付加価値の高い半導体向け露光装置用の硝材が販売を伸ばすとともに、「ナノセラム™」の売上高も2017年度の1億円から14億円へ躍進を遂げました。

これらの増収のうち、特に車載カメラ用の新硝材やス

マートフォン関連の「ナノセラム™」における成果を、モバイル・モビリティ市場の攻略に向けた全社横断型組織「MMB（モバイル・モビリティ・バッテリー）推進プロジェクト」にて共有し、さらに同市場でのプレゼンスを拡大してまいります。

一方、損益面においては、2017年度から進めている光事業からエレクトロニクス事業への熔解資源シフトにより、各生産設備の稼働率が著しく向上し、加えて原価低減活動の推進が収益改善に寄与しました。さらに売上構成においても、より付加価値の高い製品が増加したことで、2018年度は計画を大幅に上回る利益成長を実現しました。

● 中期経営計画の進捗と今後

新市場への参入が着実に進展中、目標値を上方修正

前述の「MMB推進プロジェクト」は、自動車のEV化・自動運転化の進展、5G通信システムの実用化や光通信インフラの拡充、モバイル・ウェアラブル機器の本格普及などが見込まれるモバイル・モビリティ市場への参入を担う取り組みです。この新市場での事業展開においては、最終製品に至るお客様のサプライチェーン全体を捉え、私たちが生み出す素材の利用価値についてソリューションを含めた提案の中で訴求する必要があります。中期経営計画のキーコンセプト「マテリアル+ソリューションのオハラ」は、そうした方向性を明確化し、方針として打ち出したものです。

計画初年度の進捗として、モバイル市場では「ナノセラム™」のスマートフォン本体への試作採用を端緒に、今後はカバーガラスから筐体、レンズカバー部分などへの採用拡大を目指すとともに、生産体制の増強を進めていきます。モビリティ市場では、車載カメラ用の新硝材が高く評価され、着実な成果を上げています。現在、新たな「マテリアル+ソリューション」として、温度変化に伴う屈折率への影響を補正できる光学ガラスをリリースしており、自動車メーカーや部品メーカーに提案中です。

計画最終年度の目標数値については、すでに営業利益及びROEが大幅に過達するなど、初年度において想定以上の進捗となっていることを踏まえ、「売上高300億円以上」「営業利益35億円以上」「ROE8%以上」「総資産有利子負債比率8%以下」「エレクトロニクス事業売上高比率45%以上」と再策定しました。

なお2019年度は、デジタルカメラ市場においてミラーレス機への移行に伴う一時的な需要減少・減産が予想され、その一方で費用面では、生産設備の増強に伴う償却負担

の増加が生じることなどから、減収・減益となる見通しです。その中で光事業は、新硝材の投入でシェアを維持しつつ、ガラスモールドレンズの増産・販売拡大により売上高の引き上げに努めていく考えです。エレクトロニクス事業は、「ナノセラム™」の販売を2018年度の倍となる28億円まで拡大し、スマートフォン向けの実績を着実に積み上げていきます。

● ステークホルダーの皆様へ

「夢実現企業」としてマテリアル + ソリューションを提供

今回の期末配当は、前期比10円の増配となる1株当たり30円を実施しました。2019年度は、先に述べました通り減収・減益となる見通しですが、期末配当については、利益還元の長期安定を目指す方針のもと、同額を継続する予定です。過去の業績低迷局面を支えていただいた株主の皆様へ報いるべく、当面は同水準を維持したいと考えています。

私たちの事業活動における製造工程、とりわけガラスの熔解は多くのエネルギー消費を要するプロセスです。それゆえに、そこから生み出される製品は、環境保全に大きな効果をもたらすものであるべきと認識しています。光学ガラス製品は、全硝種において鉛フリー化・ヒ素フリー化を実現しており、環境にやさしいものづくりに貢献しています。また今後は、「ナノセラム™」の需要拡大に対応する観点から熔解工程の革新に着手していきます。これは、ガラスセラミックスの熔解能力を従来以上に高めるもので、「ナノセラム™」の製造のみならず、全体のエネルギー効率改善につながる革新として期待できます。一方、バッテリー分野では、全固体リチウムイオン電池の実用化を支える材料開発を進めつつ、現行の液式バッテリーについても正極材用添加材により性能を向上させ、世の中の省エネルギー化に寄与していきます。

モバイル・モビリティ市場への参入を通じて、オハラグループの事業は、これまで以上に社会との接点が拡大しています。私たちは、最高品質の先進素材により技術革新をリードし、後工程及び最終製品の差別化を支えながら、人類が描く夢や豊かな未来社会の実現に向けて、サプライチェーン全体で素材の良さを活かせる関係を築き、ソリューションを提供してまいります。株主・投資家の皆様ならびにすべてのステークホルダーの皆様には、「夢実現企業」としてのオハラグループにご期待いただき、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役 社長執行役員

齋藤 弘和



# OHARA VISION 2020 & BEYOND

## 長期ビジョン2020について

2000年代初頭、デジタルカメラの性能向上に伴いカメラ市場は拡大しましたが、2008年9月のリーマン・ショックによって世界規模の金融危機が発生し、光学ガラス業界の事業環境も急速に悪化しました。

こういった外部環境に対して、生産体制の見直しと高付加価値品の開発による収益性の回復を目指した事業基盤を構築していくために、2009年度に「長期ビジョン2020」を作成しました。現行の中期経営計画（2018年度～2020年度）は、この第4フェーズに当り、「長期ビジョン2020」の最終ステージとなります。

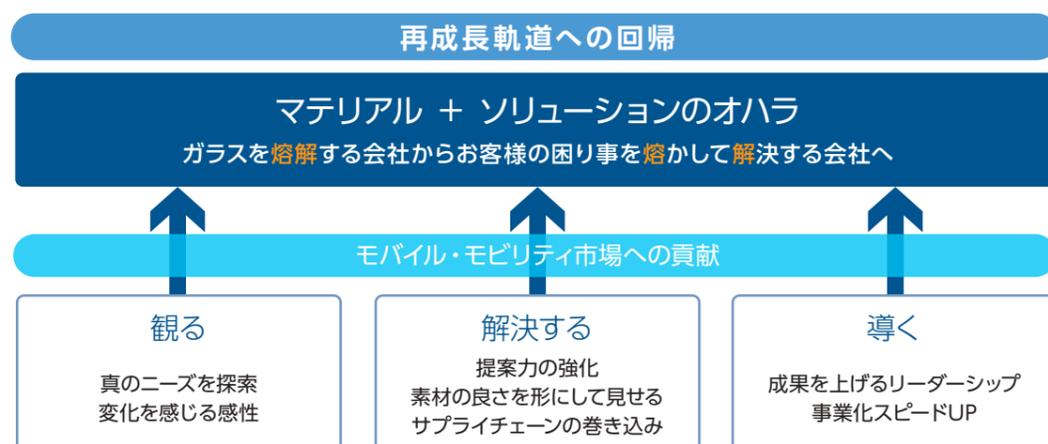
この第4フェーズは「OHARA VISION 2020 & BEYOND」と題し、2020年度のみならず2020年以降の“飛躍”へ向けて、さらなる財務体質の改善と次世代の成長戦略を推進する「再成長軌道への回帰」を目指して取り組んでいます。



## キーコンセプトは「マテリアル+ソリューションのオハラ」

「OHARA VISION 2020 & BEYOND」では、素材サプライヤーからマテリアル・ソリューション・カンパニーへと成長していくために、「ガラスを溶解する会社からお客様の困り事を溶かして解決する会社へ」というフレーズを掲げました。

オプト・エレクトロニクスの次世代技術が活用される成長市場として「モバイル・モビリティ市場」に狙いを定め、その新たな市場で貢献していくために、市場のニーズをしっかりと見て、我々の素材の価値をキチンと発信し、お客様にその良さを伝えるために必要なサプライチェーンをつないで提案していく。それによってお客様の困り事を解決していく会社を目指していきます。



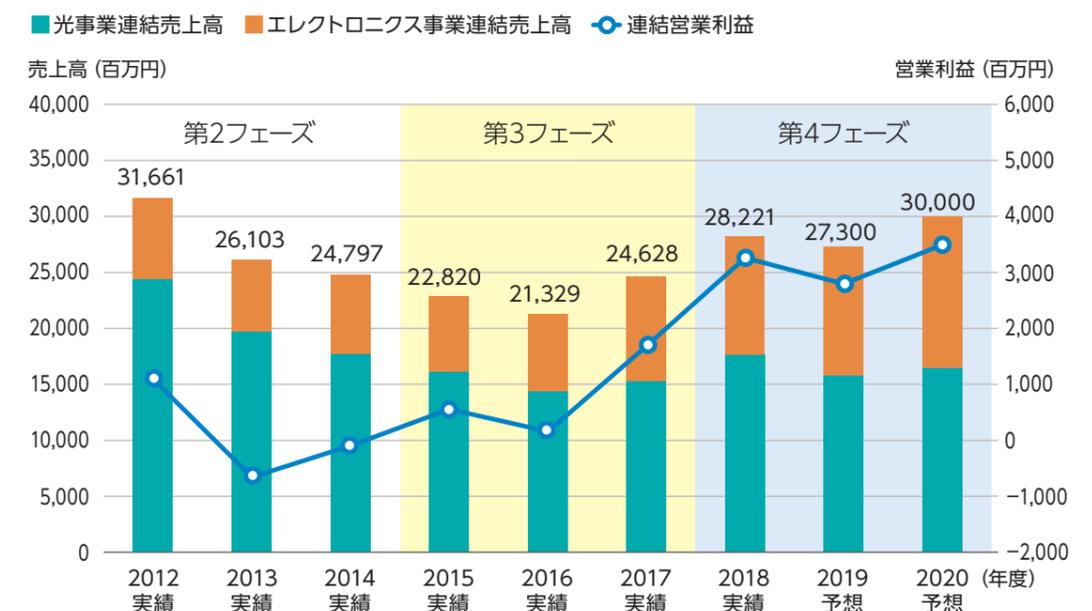
## 長期ビジョン2020 第4フェーズの進捗状況

2015年度～2017年度の中期経営計画（第3フェーズ）では、デジタルカメラ市場の縮小に伴う光学ガラス溶解拠点の稼働率低下や、光学ガラスの主原料であるレアアースの価格高騰などの影響で低下した収益性を回復させるため、「事業構造の転換」と「新成長ドライバーの構築」を基本戦略に掲げて取り組んできました。

光事業では、経営資源を積極的にエレクトロニクス事業へシフトするなど、生産キャパシティの適正化を進めて構造改革に取り組むと同時に、原価低減活動などにも注力しました。エレクトロニクス事業は、半導体露光装置、FPD露光装置、光通信などの関連市場で設備投資が活況であった背景も重なり、売上高を増やすことができました。

2018年度～2020年度の中期経営計画（第4フェーズ）の初年度は、光事業では、お客様との連携強化の活動成果が始め、ハイエンド光学機器向けの新製品やレンズ加工品の需要増によって業績が堅調に推移しました。エレクトロニクス事業は、一部の市場で在庫調整局面となりましたが、半導体露光装置向けが引き続き好調に推移したとともに、新製品「ナノセラム™」のスマートフォン向けサプライチェーンの確立に注力し、好調に推移しました。

これらの活動の結果、中期経営計画最終年度（2020年度）の営業利益目標を初年度で達成することができたため、営業利益及びROEの目標を上方修正することにしました。



経営指標	2018年度実績	2020年度当初目標 (2017年12月公表)	2020年度修正目標 (2018年12月公表)
売上高	282億円	300億円以上	300億円以上
営業利益	32億円	24億円以上	35億円以上
自己資本利益率(ROE)	7.6%	5.0%以上	8.0%以上
総資産有利子負債比率	8.3%	8.0%以下	8.0%以下
エレクトロニクス事業 売上高比率	37.5%	40.0%以上	45.0%以上

# MMB推進プロジェクト

～新市場開拓へ向けての組織横断での取り組み～

オハラは長年積み上げてきた基盤技術やコア技術を基にカメラ産業を中心とした光製品及び半導体、情報通信分野などにおいてビジネスを展開してきました。しかし近年スマートフォンの普及による写真文化ヘシフトが進みつつあります。そこで、事業組織横断プロジェクトを立ち上げ、部門間連携を強化することで、未知の分野であるモバイル・モビリティ・バッテリーの新市場への開拓を進めるべく、プロジェクトを立ち上げ取り組んでいます。

**お客様の求める真の価値（ソリューション）を提案する活動にシフトし【再成長軌道への回帰】を実現します。**

プロジェクトオーナー 青木 哲也

新市場開拓においては既存ビジネスで構築してきた商流や人脈の活用が難しい中で、オハラ製品や技術を未知のお客様に宣伝しなければなりません。また、完成品を手掛けるセットメーカーとの間には多くのプレーヤーが複雑なサプライチェーンを形成しています。

それらの困難な状況を打開するために知恵や情報を共有しながら市場開拓するための事業横断組織、MMB推進プロジェクトを立ち上げました。



MMBは目指すべきターゲット市場である、モバイル・モビリティ・バッテリーの頭文字です。期間は中期経営計画同様、2018年度から2020年度までの3年間のプロジェクトとしました。

これら未知の分野で新市場開拓するにあたり、共通の価値観（コアバリュー）として掲げたのが、【先進素材のオハラ】から【マテリアル+ソリューションのオハラ】へのシフトです。単に素材やその特性を淡々とPRするのではなく、利用されるシーンを想定し、お客様の求める真の価値（ソリューション）を提案する活動にシフトして行こうとい

エンドユーザーまでを見据えた「マテリアル」+「ソリューション」の提供

- 素材の良さを発信する  
素材の良さを伝えるために、プロトタイプ・モックアップに仕上げて提案する。
- 顧客密着  
サプライチェーン構築  
お客様と深い信頼関係を築き、真のニーズを把握する。
- お客様とともに  
エンドユーザーへ  
素材チューニングの価値をエンドユーザーまで届ける。

う意味です。

既に、モバイル分野では耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス（ナノセラム™）を提案し5G通信で優位性を発揮するスマートフォン筐体材料としてソリューション提案をしています。車載カメラの性能向上に寄与する光学ガラスや二次電池特性を改善するリチウムイオン伝導性ガラスセラミックス（LICGC™）も同様の取り組みを進めています。2019年度以降もこれらに続く様々なソリューション提案を進め、コアバリュー【マテリアル+ソリューションのオハラ】を定着させるとともに、【再成長軌道への回帰】実現に貢献していきます。

**モバイル市場に注力し、ナノセラム™を中心とした特殊ガラスを成長させていきます。**

プロジェクトリーダー 南川 弘行

MMBのカテゴリのうち、モバイル市場はスマートフォンをはじめ今では皆様の生活になくてはならない製品群として巨大な市場を形成しています。私の所属する特殊品事業部では特にこのモバイル市場に注力し、市場開拓や用途展開を実施してきました。モバイル市場は今後もモビリティやバッテリー市場とともに拡大していくものと見ており、新製品であるナノセラム™はモバイル市場への製品展開に大きな期待が寄せられています。MMBプロジェクトを通して、この期待に応えるべく営業やマーケティング活動を行い、ナノセラム™の認知度はお客様に浸透し、今では様々なモバイル用途への評価が進み、成果が出始めています。

ナノセラム™を中心とした特殊ガラスをさらに大きなビジネスにつなげ、オハラの太い柱となる事業へと成長させていきたいと考えています。

温度変化に伴う光学ガラスの屈折率が変化する挙動（温度ドリフト）に着目し、特異な特徴を有する光学ガラスのラインアップを充実させています。

プロジェクトリーダー 遠藤 弘康

近年、車載カメラはADAS（先進支援運転システム）に用いられ、デジタル画像認識技術を応用し、直接自動車を制御するためのセンサーとしての役割を担っているため、この用途で用いられるカメラは「車載カメラ」と呼ばれます。

車載カメラは寒冷地から炎天下の車内まで、様々な環境下で正常に作動しなければならず、温度変化によるカメラ画像のピントのズレを常に抑制していかなければなりません。

オハラでは温度変化に伴い光学ガラスの屈折率が変化する挙動（温度ドリフト）に着目し、複数枚のレンズを組み合わせて、温度ドリフトが補正できるよう、温度ドリフトに特異な特徴を有する光学ガラスのラインアップを充実させました。お客様である光学設計者の皆様から「光学ガラスの選択肢が増え、光学設計の自由度が高まった」とご好評を頂いています。

これまでに培った技術をベースに、LB事業で保有する技術を活用しさらなる進展加速化につなげていきます。

プロジェクトリーダー 中島 耕介

MMBのBの頭文字で表されるバッテリー（電池）は、便利なモバイル機器やモビリティの駆動に欠かせないエネルギーツールです。オハラでは、これまでに培った技術をベースとしてリチウムイオン伝導性ガラスセラミックス（LICGC™）を開発し、それをコアとした電池部材（LB）事業の開発を推進しています。MMBプロジェクトでは、オハラのグローバルネットワークを活かした顧客開拓とサプライチェーン構築、そしてLB事業で保有する技術を活用して新市場開拓活動に注力しています。MMBプロジェクトでの自由闊達なディスカッションから、今後のビジネス発展につながるオハラグループ販売会社との連携による海外新規顧客の開拓や、異業種他社との新たな顧客価値創出に向けたコラボレーション検討などの成果が創出されつつあります。MMBプロジェクトの活動を、今後のLB事業開発のさらなる進展加速化につなげていきたいと考えています。



私たちは、社会に役立つ製品・サービスを開発・提供し、お客様の満足と信頼を獲得できるよう努めます。このために、事業を行う国や地域の法律やルールを遵守するとともに、その国や地域の文化や慣習を尊重し、公正・透明・自由な競争および適正な取引を通じて、誠実な企業活動を行います。

### コーポレートガバナンスの基本的な考え方

オハラは、「常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。」を経営理念として定め、これに基づいて事業活動を行っています。

オハラは、この経営理念を実現するため、社内組織体制や経営管理上の仕組みを整備し、必要な施策を実施しています。また、株主、顧客、社員、地域社会などの様々なステークホルダーの皆様に対して、社会の公器としての責任を果たすことが、結果として、企業価値の最大化につながるということを強く認識し、企業倫理に即して透明性及び健全性が確保された経営を行うことが、オハラの考えるコーポレートガバナンスであります。

### コーポレートガバナンスの充実に向けた取り組み

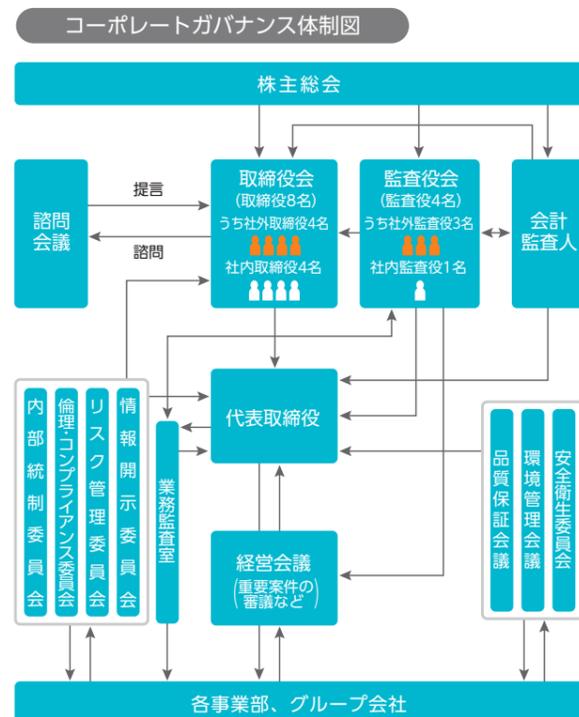
#### コーポレートガバナンスに関する基本方針

オハラは、コーポレートガバナンス・コードの趣旨・精神を踏まえたうえで、オハラグループの持続的な成長及び企業価値の向上のために、最良のコーポレートガバナンスの追求及びその充実を図ることを目的として、「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を制定しています。なお、2018年6月のコーポレートガバナンス・コードの改訂に伴い、本基本方針を更新しました。

※「コーポレートガバナンスに関する基本方針」については、ウェブサイトをご参照ください。

#### コーポレートガバナンス体制

オハラは、迅速な経営判断及び業務執行ならびに監督機能の強化を図るための組織体制を整備しています。



#### 取締役会の実効性に関する分析・評価

オハラは、コーポレートガバナンスに関する基本方針において、「取締役会は、毎年、取締役会全体の実効性について分析・評価を行い、その結果の概要を開示する。」としており、これに基づく全役員に対するアンケート調査及びその分析・評価を行いました。評価結果では、2017年度に課題として認識した社外役員への事前説明の強化、中長期の事業戦略や経営の方向性及び代表取締役の後継者の計画に関する議論について一定の改善がなされたことを確認しました。2018年度は、これらのさらなる改善と、討議テーマの選定や討議時間、社外役員と内部監査部門のコミュニケーションについても改善に取り組み、コーポレートガバナンス体制の一層の強化に努めました。

※「取締役会の実効性に関する分析・評価の概要」については、ウェブサイトをご参照ください。

#### 最高経営責任者（代表取締役）などの後継者育成について

オハラは、最高経営責任者のみならず経営上重要なポストを担うリーダーとしての資質の高い人材を選抜し、常に上位の職責を意識づけよう然るべきポジションに配置、登用し、育成する仕組みを進めています。



- <オハラ経営人材の要件>
- 1 事業運営・拠点経営の経験、もしくは戦略企画などの全社的視点での業務経験
  - 2 経営者としての覚悟・胆力…企業価値向上に向けて、リスクをとり、果断に決断し、実行する力
  - 3 変革力…業界や組織の常識・過去の慣習に縛られない視座を持ち、組織を鼓舞し、あるべき姿の実現に向けて、組織を変えていく力

### 倫理・コンプライアンス強化に向けた取り組み

#### コンプライアンス推進体制

企業倫理の基本理念に則った「行動指針」を定めており、「倫理・コンプライアンス委員会」ではこの行動指針に従い、役員をはじめ社員全員が法令を遵守するだけでなく、高い倫理観を持って公正かつ適正な事業活動を遂行するよう、各種社内セミナーを継続的に実施しています。

#### 1. インサイダー取引規制セミナー

オハラでは、インサイダー取引に対する理解を深めるため、定期的に研修を行っています。

2018年度は一般社員を対象にインサイダー取引規制の基礎的な知識に関する研修を行いました。



インサイダー取引規制セミナー

#### 2. 全社員向けコンプライアンス研修

オハラで働くすべての人を対象に、定期的にコンプライアンス研修を行っています。

2018年度は、「セクシャルハラスメントの防止」、「パワーハラスメントの防止」、「人事・職場における不当な差別の撤廃」、「過剰労働による健康被害の防止」をテーマに研修を行いました。



全社員向けコンプライアンス研修

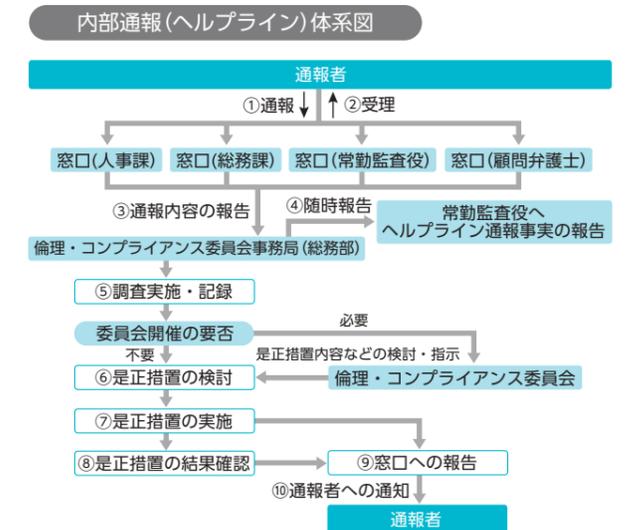
#### 行動規範「ガイドライン」

企業倫理の基本理念及び行動指針に基づき、事業活動において遵守すべき法令などの主要項目、対応方針及び注意事項などを具体的に明記したものを行動規範「ガイドライン」として定め、全社員向けコンプライアンス研修や社内イントラネットなどを活用した啓発活動を行っています。

#### 人権に対する取り組み

#### 内部通報（ヘルプライン）制度

相談者（通報者）が直接「倫理・コンプライアンス委員会」に相談（通報）するための内部通報（ヘルプライン）制度を設けています。



### 2018年度活動レビュー

#### 誠実な活動

オハラグループの持続的な成長及び企業価値の向上に向けた施策として、後継者育成計画を具体化し、次世代、次々世代の後継者育成の施策に取り組みました。また、取締役会の実効性についての分析・評価にもとづき、討議テーマの選定や討議時間、社外役員と内部監査部門のコミュニケーションについても改善に取り組み、コーポレートガバナンス体制の一層の強化に努めました。

#### 自己評価 … ★★★★★

目標達成度：★★★★=100~85%   ★★=84~70%   ★=69%以下

#### 2019年度の課題

オハラグループの持続的な成長及びさらなる企業価値の向上に向け、より実効性のあるコーポレートガバナンス体制へと継続的に進化させていかなければなりません。そのため、引き続き取締役会の実効性に関する分析・評価にもとづいた改善を行っていくとともに、後継者育成計画を着実に実行していく必要があると考えています。

私たちは、地域社会や国際社会との調和を忘れず、節度ある企業活動を心がけ、「良き企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。

地域社会とのつながり

かながわトラストみどり財団より表彰

構内にある自動販売機の売上げの一部を緑の募金へ寄付していたことにより表彰されました。表彰記念に「ムラサキシキブ」の植樹が関係者によって行われました。



記念の植樹

防災訓練の実施

万が一の災害に備え、迅速な行動がとれるよう、毎年全社員を対象とした防災訓練を実施しています。

地域自治会のVOICE

社員の方が起震車や消火訓練などを実際に体験している様子を目の当たりにし、参加した自治会の方々とともに「百聞は一見に如かず」、災害時の自助、共助の大切さを痛感しました。今後も、企業と地域の一体化推進に向け努めていきます。



地域自治会の参加者

社会貢献活動

工場見学・職場体験の受け入れ

地域社会貢献活動の一環として、近隣の学校の工場見学などを受け入れています。

2018年度は小学5年生121名が工場見学に来社し、ガラスだけでなく、環境の取り組みについても理解を深めていました。

また、中学生も2年生2名が訪れ、自分が行う仕事が次につながっていること、また将来に活かせる貴重な体験ができたことと感想を頂きました。



小学生工場見学

職場体験

相模川クリーン作戦への参加

オハラがある相模原市には、相模湾に注ぐ相模川が流れています。豊かな自然を守り、より良い環境づくりを推進する「相模川を愛する会」が主催となり年2回「相模川クリーン作戦」と称して河川敷の一齐清掃が実施されています。

オハラもこの活動に賛同し、2018年度は総勢125名もの社員やその家族が、市内の団体・個人とともに参加しました。

未来へつながる自然を守るため、これからも環境保全活動を継続していきます。



参加した社員とその家族

2018年度活動レビュー

社会との調和

社員に対する継続的な啓蒙活動の実施はもちろん、地域社会とのつながりを大切に、常に企業として何ができるかを考えながら社会貢献活動を行うことができました。

自己評価 … ★★★★★

目標達成度：★★★★=100~85% ★★★=84~70% ★=69%以下

2019年度の課題

今後も地域社会とコミュニケーションを図り、また社員の意識改革に取り組む活動を継続しながら、社会との調和を目指していきます。

私たちは、企業活動に対する社会からの正しい理解と支持を得るため、企業情報を適時・適切に開示し、誠実で、透明性の高いコミュニケーションに努めます。

ステークホルダーとのコミュニケーション

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

毎年1月下旬に開催している定時株主総会では、株主の皆様におハラの戦略を分かりやすくお伝えするよう努めているほか、年1回統合報告書「オハラレポート」をお送りしています。

また、機関投資家、証券アナリストの皆様を対象に、決算説明会を年2回、テレフォンカンファレンスを年2回開催するとともに、IR担当部門にて随時個別取材に対応しています。



決算説明会

個人投資家の皆様とのコミュニケーション

ウェブサイトにおいて、決算短信などの適時開示資料をはじめ、株主総会招集通知や決算説明会の資料といった各種資料を開示しています。また、証券会社での個人投資家向け説明会も行いました。なお、これら説明会などで頂いたご意見は、速やかに経営陣と情報共有を行い、企業活動の参考としています。



個人投資家向け説明会

年間IRカレンダー

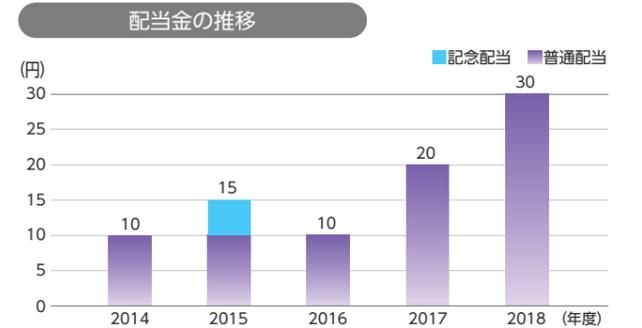


IR活動実績

2017年12月14日	2017年度 決算発表・決算説明会
2018年 1月25日	第109期 定時株主総会
2018年 3月16日	2018年度 第1四半期決算発表・テレフォンカンファレンス
2018年 6月14日	2018年度 第2四半期決算発表・決算説明会
2018年 9月14日	2018年度 第3四半期決算発表・テレフォンカンファレンス

配当政策

オハラは、経営基盤の強化と今後の事業拡大のため、必要な内部留保を充実しつつ、株主各位に対する安定かつ継続的な利益還元を期末配当にて実施していくことを基本方針としています。



2018年度活動レビュー

情報の公開

業績の回復に加え、ナノセラム™やLICGC™に高い関心をお寄せ頂いたことから、多くの株主・投資家の皆様とお話する機会が得られました。ナノセラム™に関しては、スマートフォンの筐体向け量産試作が進展した結果、売上高は2017年度を大きく上回りました。その経緯については、決算説明会において詳細にご説明したほか、その際の質疑応答要旨をウェブサイトへ掲載するなど、情報開示の充実に努めました。

自己評価 … ★★★★★

目標達成度：★★★★=100~85% ★★★=84~70% ★=69%以下

2019年度の課題

「再成長軌道への回帰」を目指す新中期経営計画について、分かりやすくお伝えするとともに、その進捗について誠実に報告する必要があると考えています。2018年4月から適用されることになったフェア・ディスクロージャー・ルールに適切に対応しつつ、積極的なIR活動を行い、株主・投資家の皆様との双方向コミュニケーションの充実に努めていきます。

私たちは、かけがえのない地球を大切に、企業活動の全ての局面で、環境保全活動に自主的・積極的に取り組みます。

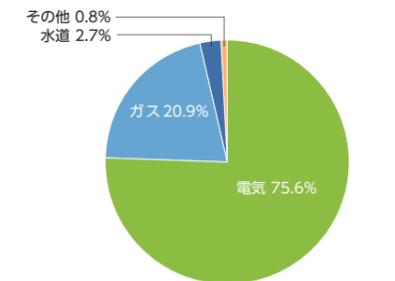
環境マネジメント

オハラは企業活動と地球環境との調和を目指し、環境理念と方針を掲げ、様々な取り組みを推進しています。

省エネルギー・省資源への取り組み

ガラス製造には多くの資源（電気・都市ガス）の消費を必要とします。限りある資源の消費を最小限度に抑制すべく、以前より省エネタイプの設備への切替えや効率的な生産の推進に取り組んできました。今後も省エネルギー・省資源へ向けた様々な活動を推進し、エネルギー使用量の抑制につなげていきます。

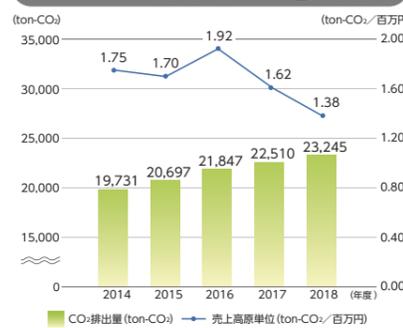
エネルギー使用量内訳（金額ベース）



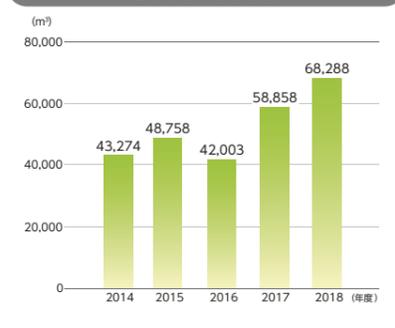
電気・ガス使用量（原油換算）



エネルギー使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量



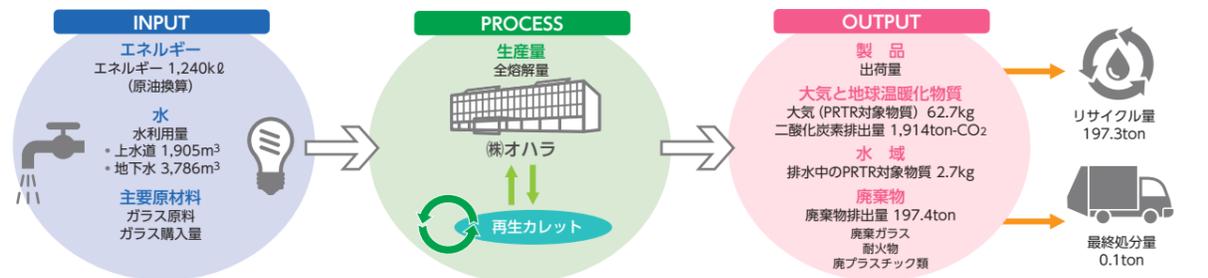
水資源の使用量



マテリアルバランス

オハラは事業活動におけるエネルギーや資源の投入（INPUT）と、その活動に伴って発生した製品や環境負荷物質（OUTPUT）を定量的に把握し、環境保全活動に展開しています。

数字は月平均値



ISO14001全社教育

2018年2月にオハラで働くすべての人を対象として環境教育を実施しました。外部の専門家を招き環境法令に関する基礎知識や法令順守の重要性、環境に関する関心の高さを改めて認識する場となりました。



ISO14001全社教育

環境の保全

2017年4月にISO14001:2015年度版の認証を取得することができました。2015年度版への移行後、初年度ということもあり効果的な運用を模索した一年でありましたが、全社教育などを通じて、社員の理解も広がり、適切なEMS (Environmental, Management, System) 運営を行うことができました。今後も皆様からのご期待に沿えるよう、環境マネジメントシステムを運用していきます。

2018年度活動レビュー

2019年度の課題

廃棄物の削減・再利用

廃棄ガラス原単位を8.6%削減しました。ドレンガラスの再利用及び再生カレットの使用率向上が大きな成果を発揮しました。

目標達成度 ★★★

廃棄ガラス原単位1%削減（2018年度比）を目標に活動を進めます。また、海外を含めたグループ会社一丸となって削減を目指していきます。

省エネルギー

エネルギー原単位を11.3%削減しました。生産管理部門と製造部門が協力して効率的な生産計画を策定して実施したことにより、エネルギー原単位が大きく改善されました。

目標達成度 ★★★

エネルギー原単位1%削減（2018年度比）を目標に活動を進めます。また、海外を含めたグループ会社一丸となって削減を目指していきます。

地域社会の環境調和

社内外の美化促進活動として、会社外周清掃を19回実施しました。

目標達成度 ★★★

全社に呼びかけ会社外周清掃を引き続き実施していきます。

ノーカーデー運動を推進し二酸化炭素排出量を年間18.3ton削減しました。

目標達成度 ★★★

ノーカーデー運動を継続実施し、二酸化炭素排出量を年間15ton削減します。

地球環境改善への貢献

環境負荷の少ない製品開発をするため、提案型営業を推進し、顧客訪問展示会や技術交流会で得た情報を社内にフィードバックしました。

目標達成度 ★★★

環境負荷低減に関するお客様からのニーズを社内へフィードバックしていきます。

法令遵守

「環境体制調査表」を見直し、取引先環境体制調査を実施しました。

目標達成度 ★★★

取引先管理の強化を引き続き実施します。

目標達成度: ★★★=100~85% ★★=84~70% ★=69%以下

私たちは、社員の人権・人格を尊重し、企業倫理の精神を育むとともに、安全で働きやすい労働環境を確保し、自由闊達な企業風土をつくります。

次々世代後継者育成計画

次世代後継者（部門長以上、子会社責任者対象）の育成を進めています。会社・事業の持続的な成長のため、舵取りを任せられる人材を早期から計画的に育てようという取り組みを行っています。経営人材候補を安定的・継続的に輩出するために、管理・監督者クラス以外にも対象を広げた育成プログラムを稼働します。女性活躍推進も強化しており、育成計画には多くの女性も候補者になっています。

外国人の活用

語学力のみならず、留学経験から得た能力や知識、さらに行動力や主体性をもつ人材として期待しています。国際社会で共存できるフレキシブルな対応力やバイタリティー、コミュニケーション能力など、外国人の活用の幅を広げ社員の多様性にも取り組んでいます。現在では海外拠点と海外顧客の架け橋として営業部門や生産管理部門などで活躍しています。

表彰制度

創立記念式典、全国安全週間、全国労働衛生週間に表彰制度を導入しています。優良従業員賞や功績賞、永年無欠勤賞など顕著な活動や実績が会社に認められた者に対し表彰を行っています。2018年度の創立記念式典では従来の表彰以外に特別賞も2件表彰され、社員の活動や成果に対し表彰という形で報えています。

子育て支援制度

育児休業制度や育児短時間勤務制度（小学校就学まで）を充実させ、働きながら子育てを行う社員を応援しています。育児短時間勤務制度は多くの社員が利用できるように2時間の利用可能時間のうち1時間分を「有給」としています。また、近年では男性社員の取得も増えてきており、会社全体で子育てをバックアップしています。

**VOICE**



**管理者として**

多くの研修に参加し学びの機会を頂きました。研修や上司との懇談では、自分に求められるものや、また立場による考え方の違いを理解することができました。各研修で得た知識と今までの経験から、個人の考えを尊重し一体感がある強い組織作りを目指し、非球面ガラスモールドレンズ事業で大きな成果を得られるよう邁進したいと考えています。

光製品事業部 光製品製造部  
北島 幸男

**VOICE**



**外国籍社員として**

オハラは国籍を問わず、一人一人の能力や強みを活かして働ける会社だと思います。私は中国出身のため、日本のビジネス習慣を理解するのを上司や先輩が親切にサポートしてくれます。オハラの一員として、今後はナノセラム™を世界レベルの事業に成長させ、オハラのさらなるグローバル展開に貢献していきたいと考えています。

特殊品事業部 特殊品BU  
林展鵬

**VOICE**



**特別賞を受賞して**

他部署の方々や打合せを重ねながら、業務に邁進した結果、今回関係者全員でこのような賞を受賞することができました。努力した成果が認められ、とても嬉しく光栄に思っています。今後もひとつひとつの業務を丁寧に取り組み、会社に貢献できるよう精進します。

事業支援センター 品質保証部  
鳥谷 依実奈

**VOICE**



**育児短時間勤務制度を利用して**

育児と仕事の両立を始めて4年になります。想像以上に両立は大変ですが、必要なときに育児短時間勤務制度を利用して、子供との時間を作ることができています。職場の上司や仲間の理解と協力のおかげで、子供の成長を肌で感じることができ、とてもいい経験をさせてもらっています。

材料生産センター 製造部  
田倉 律

2018年度活動レビュー

社員の尊重

ワークライフバランスの充実に向け、社員の意見も積極的に取り入れ、従業員満足度向上、時間外労働の削減を目指し活動しました。また、熱中症対策に力を入れ、安全で働きやすい作業環境や健康維持に向けた取り組みを実施しました。

自己評価 … ★★

目標達成度：★★★=100~85% ★★=84~70% ★=69%以下

2019年度の課題

オハラに効果的な働き方改革を推進させ、ワークライフバランスの充実に向けた施策を展開していきたいと考えています。働きがいや生きがいを醸成し、さらなる時間外労働の削減、女性活躍推進及び障害者雇用の拡大など働きやすい職場環境づくりに取り組んでいきます。



みんなで1つに

オハラグループは、より良い企業作りを目指しています。

仕事をしていて喜びを感じたこと

自分がかかわった素材が利益となり、会社に貢献できたとき。



 台湾小原光学股份有限公司  
製造 楊麗煌

オハラの各拠点の人々と出会い、力を合わせて一緒に仕事できたとき。



 小原光学(香港)有限公司  
営業 陳玉翔

知的財産業務を通じて人と人とのつながりを実感できたとき。



 株式会社オハラ  
事業支援センター 平井 美圭

チャンスに溢れていて、やりがいのある仕事に携われたとき。



 OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.  
製造部 LIM BOON PING

オハラの各拠点と交流して、良い所を取り入れ、良品が増えたとき。



 足柄光学株式会社  
製造部 齋藤 純一

全ての輸出入資料を纏め、原料や製品をスムーズに輸送できたとき。



 台湾小原光学材料股份有限公司  
業務部 廖婉蓉

自分が携わった製品の品質の良さが評価されたとき。



 株式会社オーピーシー  
管理サイト 寺尾 和

お客様の要望通り注文を処理し、感謝の言葉をいただいたとき。



 OHARA GmbH  
管理部 Bettina Maler

各部門の協力を得ながら、貿易業務を円滑に進めることができたとき。



 小原光学(中山)有限公司  
生産管理 李美娟

技術の仕事で6年間担当し、綺麗なガラスが溶解装置から徐々に出たとき。



 華光小原光学材料(襄陽)有限公司  
製造部 劉小琴

検査業務の改善を行い、検査精度の向上を図ることができたとき。



 株式会社オハラ・クオーツ  
製造部 森 康平

チームの皆とともに働き、新しいなにかを学ぶことができたとき。



 Ohara Corporation  
技術営業 Nicholas Bilis

	2014	2015	2016	2017	2018 (年度)
<b>主な経営成績</b> (単位：百万円)					
売上高	24,797	22,820	21,329	24,628	28,221
営業利益	△ 110	538	143	1,715	3,270
経常利益	494	1,316	△ 84	2,242	3,705
親会社株主に帰属する当期純利益	17	545	△ 372	1,513	3,220
純資産	40,672	41,522	37,040	41,204	44,040
総資産	54,823	55,130	50,161	54,433	58,731
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,969	1,573	1,447	1,960	3,016
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 576	△ 979	△ 850	△ 1,410	△ 937
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,510	△ 1,137	△ 354	△ 1,736	△ 1,158

<b>1株当たりデータ</b> (単位：円)					
純資産	1,650.60	1,706.97	1,522.70	1,693.90	1,810.47
当期純利益	0.71	22.43	△ 15.31	62.23	132.37
配当金	10.00	15.00*	10.00	20.00	30.00

☆うち記念配当5円

<b>主な指標</b> (単位：%)					
自己資本比率	73.2	75.3	73.8	75.7	75.0
総資産経常利益率 (ROA)	0.9	2.4	△ 0.2	4.3	6.5
自己資本利益率 (ROE)	0	1.3	△ 0.9	3.9	7.6
株価収益率 (PER)	809.86	26.36	—	35.64	18.02
配当性向	1,402.7	66.9	—	32.1	22.7

<b>セグメント情報</b> (単位：百万円)						
光事業	売上高	17,693	16,105	14,418	15,334	17,625
	営業利益	74	366	△ 107	688	1,373
エレクトロニクス事業	売上高	7,103	6,714	6,911	9,294	10,596
	営業利益	△ 184	171	251	1,027	1,897

※ 2014年度より、オハラグループの経営管理の効率化を図るため、連結子会社の各社決算日を連結決算日に変更しました。この変更により2014年度は、決算日が8月31日の連結子会社については2013年9月1日から2014年10月31日までの14ヶ月間、決算日が9月30日の連結子会社については2013年10月1日から2014年10月31日までの13ヶ月間を連結しています。

会社概要 (2018年10月31日現在)

商号 株式会社オハラ  
 所在地 〒252-5286 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30  
 TEL 042-772-2101 (代) FAX 042-774-1071  
 創立 1935年10月1日  
 資本金 58億5千5百万円  
 事業内容 光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造・販売  
 従業員数 411名 (グループ全体1,702名)

株式情報 (2018年10月31日現在)

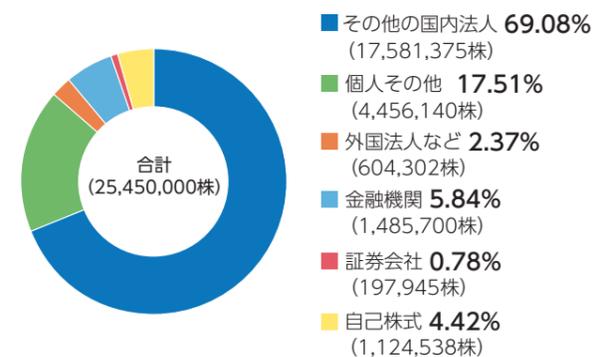
株式の状況  
 発行可能株式総数 76,000,000株  
 発行済株式の総数 25,450,000株  
 株主数 9,410名

大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
セイコーホールディングス株式会社	4,702,722	19.33
キヤノン株式会社	4,694,380	19.30
京橋起業株式会社	4,688,400	19.27
三光起業株式会社	1,651,400	6.79
株式会社トプコン	673,600	2.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	648,400	2.67
セイコーインスツル株式会社	610,000	2.51
オリンパス株式会社	400,000	1.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	321,600	1.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	154,300	0.63

(注) 出資比率は、自己株式(1,124,538株)を控除して計算しています。自己株式には、「株式給付信託(BBT)」制度の導入に伴い資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式71,100株が含まれています。

所有者別株式数分布状況



役員一覧

代表取締役 社長執行役員 齋藤 弘 和  
 取締役 専務執行役員 中島 隆  
 取締役 常務執行役員 青木 哲也  
 取締役 常務執行役員 後藤 直雪  
 社外取締役 大熊 右泰  
 社外取締役 戸倉 剛  
 社外取締役 内田 省寿\*  
 社外取締役 軒名 彰\*  
 常勤監査役 久保田 桂詞  
 社外監査役 三上 誠一  
 社外監査役 長島 和彦  
 社外監査役 杉田 光義\*

(※) 社外取締役内田省寿、軒名彰及び社外監査役杉田光義の3名は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

株主メモ

事業年度 毎年11月1日～翌年10月31日  
 剰余金の配当基準日 10月31日(中間配当を行う場合は4月30日)  
 定時株主総会 毎年1月下旬  
 単元株式数 100株  
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲1-2-1  
 事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
 公告方法 電子公告  
 (http://www.ohara-inc.co.jp/)  
 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社などに口座をお持ちの場合	証券会社などに口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
お取扱店	お取引の証券会社になります。	みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱します。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社などに口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。